

学校だより 椎の苗木通信 12月号



木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり

(木城町教育大綱の基本理念)

木城町立木城中学校

夢・力・花いっぱい

2年生修学旅行を振り返る その1

12月5日(水)～7日(金)までの3日間、2年生は、修学旅行で沖縄に行ってきました。5日(水)6:00過ぎにリパリスに集合し、バスに乗車して、宮崎空港まで向かいました。空港ロビーで出発式を行いました。修学旅行実行委員長の2B谷岡君がスローガン

『深めよう仲間との絆 高めよう平和への関心』の下、重



点目標を意識しながら、修学旅行の目的を達成できるようにしましょう！と呼び掛けました。その後、手荷物を預けて、保安検査を受けました。初めて保安検査室に入る生徒もいて、ドキドキしながらの検査でした。

10:40に那覇空港に到着しました。



初めての沖縄に降り

立った2年生の皆さんは、やや戸惑いながらも満面の笑顔でした。バスに乗り、うるま市に移動しました。昼食会場について用意されていた『沖縄そば』でした。薄味のスープにびっくりしながらも美味しくいただきました。次は平和学習の地「アブチラガマ」に向かいました。洞窟の長さ270Mの野戦病院跡で、南風原陸軍病院の分室として使われ、600人を超える負傷兵や地元住民で埋め尽くされていたそうです。現地ガイドの方に先

導され、ヘルメットと懐中電灯を手にガマの中へ足を踏み入れました。薄暗いガマの中は、懐中電灯なしでは歩けません。傷病兵の治療も薬品等も不足し、じめじめした劣悪な環境の中で、米軍の攻撃を受け、火炎放射器の炎に怯えながら、軍医



・看護婦・ひめゆり学徒隊と糸数の住民たちはガマに残り続けたそうです。見学最後に懐中電灯を消して、その当時の状況を再現しました。暗闇の中で2年生のみなさんは何かを感じてくれたようです。「アブチラガマ」を後にして、平和祈念資料館やひめゆりの塔資料館を訪問しました。目を覆いたくなるような写真や資料、太平洋戦争の沖縄戦の真実や記念碑に刻銘された多くの戦没者名に驚きを隠すことができませんでした。



平和学習の後は「うるま市入村式」でした。お世話になる民家の皆さんに生徒を代表して



2Aの金海さんがあいさつしました。民泊先のみなさんの大歓迎を受けて、それぞれの班ごとに移動しました。翌日の午前中まで、それぞれの班で様々な体験活動や家族とのふれあいを通じて、沖縄の伝統や文化に触れた貴重な時間となりました。

西都・児湯地区租税教育税についての

中学生の作文表彰式

西都・児湯地区租税教育推進協議会主催の「税についての中学生の作文」で、2年生



宮田和湖さんが銀賞になりました。

高鍋税務署の方が来校され、表彰式が行われました。

LEDペンライトが生徒に贈呈されました

木城町にある㈱ドライアップジャパンの創立30周年を記念して、本校の生徒一人ひとりに小型の懐中電灯(LEDペンライト)がプレゼントされました。当日は、ドライアップジャパンの方と中竹教育長が来校され、生徒を代表して生徒会長中下君がお礼の言葉を述べました。



校内駅伝・ロードレース大会の応援ありがとうございました。

14日(金)に小丸川河川敷で校内駅伝・ロードレース大会が開催されました。堤防上やコース周辺にはたくさんの保護者の皆さんが応援に駆けつけてくださいました。駅伝の部で3A, ロードレース団体の部でも3Aが見事優勝しました。

編集後記

先日、あるテレビ番組の特集で、「いま絵本が面白い！」というコーナーがあった。絵本というと小さな子供たちや小学校低学年を対象としているのではと思われるが、大人が絵本に触れてみると意外な発見があり面白いらしい。絵本の面白さを再発見してみたくなった。

校長雑感

「消えた天才」という番組

主に保護者の方に向けた内容が多いこのコーナーですが、今回は生徒の皆さんにも読んでほしい内容です。親子で読んで、会話の種になればもったいいと思います。

さて、宮崎ではMRTで放送されている標記のテレビ番組を観たことがあるでしょうか？例えばメジャーリーグで大活躍しているエンジェルスの大谷翔平、例えば女子マラソンの高橋尚子や、延岡出身で水泳の松田丈志のようなオリンピックのメダリストなどの、日本を代表するトップアスリートにも、中学・高校時代には、どうしても勝てなかったライバルがいて、今、その人がどうしているのかを追跡・紹介する番組です。上には上がいるということ、そして、最終的にその世界で栄光をつかんだ者と、そうでなかった者の差はどこにあったのかが、この番組のテーマなのでしょう。そこには、様々なドラマがあり、中には怪我や病気だったり、不運な巡り合わせがあったりして、同情しないわけにいかないエピソードも多くあるのですが、私が総じて感じるのは、やっぱり才能よりも努力なんだなあ…ということです。このようなハイレベルな競争の世界でさえも、やっぱりそこなんだ…とつくづく思います。

今の中高生にとっても、「あの人も最初は1番じゃなかった。勝てない相手がいたんだ。」ということが分ると、ある意味、今の自分に対して希望や勇気が湧いてくるのではないのでしょうか。今はこんな自分だけれど、諦めないで努力を続けていれば、いつかものになるかもしれないという気持ちを強くもてるのではないのでしょうか。そして、トップのレベルでもそうなのだから、自分たちの目の前のレベル、例えば、地区大会で優勝したい、県大会で上位にいきたい、勉強で〇〇さんに勝ちたい、□□高校に合格したい…といったようなレベルの話であれば、「努力」の入り込む余地なんていくらでもあるはずだ！…そういう気持ちになりませんか？

かつての1番が、自分より劣っていた選手が活躍している姿を見て、自分に足らなかったものは何かに改めて気づき、後悔ではなく、それを糧として新たな分野でがんばっている姿、前向きに人生を送っている姿を見ると、再スタートはいつでもできるということも分かります。これも大切なメッセージですよ。